

社員が出張授業

水の浄化にびっくり

川崎市多摩区の市立中野島中学校で二十七日、幸区のろ過装置メーカー「ショウエイ」の社員による出張授業があった。

一年生約百二十人を対象にした授業のテーマは「貴

多摩の中野島中

重な水を再利用―省エネろ過装置のしくみ―。

学校を訪れた社員三人の指導で、生徒たちは、砂と砂利を入れた漏斗でアオノリの混じった水をろ過。きれいになった水を見て驚いていた。社員三人はミニチュア装置で、ろ過や、ろ材をきれいにするための「逆洗」の仕組みを紹介した。

金沢愛佳さん(二)は「ろ過にはさまざまな苦労があることを知って、もっと水を大切にしなければと思った」と話していた。

出張授業は、地元企業の技術を伝えることで生徒たちに科学に興味を持ってもらい、企業も若手社員のプレゼンテーション能力を育む狙いで、市が仲介して行っている。

(平木友見子)



る過の様子を興味津々に見つめる生徒たち―多摩区の市立中野島中学校で